



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和2年1月号 第203号

(令和2年1月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp



はじめまして 東創協です<002>



◆日の出町 ジオ研究会発表会

いきなりですが、①日の出町、②ジオ、この二つをご存じですか。

まずは、日の出町です。西多摩郡に属する3つある町のひとつで人口は1万7千人余り。昨年101歳で亡くなった中曽根元総理大臣が1983(昭和58)年、当時のレーガン米大統領をここ日の出町にあった別荘に招いたことが有名で、他にもゴルバチョフ元ソビエト連邦大統領や全斗煥元大韓民国大統領も訪れたという。さらに、最近日の出町の名を有名にしているのが、圏央道の日の出ICに近接しているイオンモール日の出という巨大ショッピングモール(平成19年開業、駐車台数3,650台)です。

社学術文庫)を事前に買い求め、斜め読みではありますが、準備万端整えて伺いました。

日の出団地自治会館には20人ほどが集まり、①於奈淵下流域の成り立ちのドラマ、②日の出町草花丘陵ジオマップの作成、③秘境・羽生溪谷のジオ的有望性、が順次発表されました。内容について、ここで要約して説明したいところですが、何しろ付け焼刃の知識なんて全く役に立たない専門的なもので、申し訳ないのですが紹介することができません。わかったことは、およそ45億年といわれる地球の歴史があり、そのスパンで行けばごくごく最近ともいえる100万年を超える昔からの度重なる地殻変動により日本、関東地方の地形が出来上がった

ということ。発表後の質疑応答の時間も、門外漢には理解不能のやり取りがありました。

研究調査対象が豊富な日の出町ならではの取り組みですが、プラタモリ的なものを想像していたのは、見事に裏切られました。しかしながら、こんな世界があるのかと好奇心に火をつけてくれました。もしかして、この研究会の10人に満たない会員は、その道の専門家なのではとの疑念がもたげ、高校の地学の教師をしていたのですかと問えば、代表の方をはじめ専門家でもなんでも

ないとのことでした。世の中、多種多様な趣味・嗜好がありますが、地質学を楽しみに活動している人が少なからずいるのだなあと、改めて感心させられました。

昨今、気候変動の問題がクローズアップされていますが、地質を糧に地球の歩みをたどる試みは、まさにトピックであり誰も関心を持つ必要のある分野でもあります。あれだけ情熱を傾けられる地質の世界は、間違いなく魅力にあふれているのでしょう、遅まきながら高校時代に学んだ、否、結果として学んでいないに等しい「地学」に興味を抱き、ジオ研究会が近隣の小学生に出前している授業を受けることもできないので、「新しい高校地学の教科書」(講談社ブルーボックス)を買い込み勉強を始めました。



発表の様子

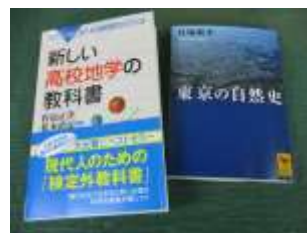


当日配布された資料

次に、ジオ(geo、γη)です。ギリシャ語で土地、地理、地球などを表す言葉であり、いわゆる地質学だけではなく、より広い意味を含む概念です。地質学はgeology(英語)ですが、地面より下(生物起源の土壌を除く)の地層・岩石を研究する、地球科学の学問分野とのことです。

本年1月、正月が明けてすぐ、JR五日市線武蔵増戸駅から徒歩16分ほど歩いたところにある、日の出団地自治会館で行われた日の出ジオ研究会の発表会に行ってきました。この研究会は、日の出町の地学的調査を主にしたジオ活動をしている団体であり、日の出町の大地の成り立ちと大地で育まれた自然、文化等の調査研究及びその成果を一般に伝える活動をしています。今回の発表会もその一環で、日の出町の観光活性化を目指し、町の面白さを調査した今年度の活動成果を発表するものです。

何う前にイメージしたのは、NHKの番組「プラタモリ」。地形や岩石などタモリの好奇心から広がりを見せる独自の旅番組ですが、東京の中でも自然の豊かさあふれる日の出町ですから、今回の発表会でも自然を読み解く知恵を授けてくれて、土地の魅力再発見できるものと想像を膨らませました。因みに、あまりに予備知識なしで行くのもどうかと思い、「東京の自然史」(貝塚爽平著、講談



付け焼刃で揃えた資料

次の機会には、できれば「座学」ではなく「実習」でジオマップ片手に地質を見て歩きたいと思えますので、またよろしくお願ひします。ありがとうございました。

◆墨田区 てーねん・どすこい倶楽部 日本語教育支援

昨年運動推進NEWS11月号で墨田区のNPO法人「てーねん・どすこい倶楽部」を紹介しました。12ある事業部の一つに、日本語教育支援部があります。その活動は週一度、墨田区の横川で開かれているので、1月のその実施日に尋ねました。

日本の人口は減少の一途であり、人手不足が深刻になっており、特に介護人材などで顕著であると言われています。現に少なからずの外国人が介護の仕事に従事しているとのこと。介護の職としては、介護福祉士があります。この介護福祉士になるには、一定の介護実務経験を積んで介護福祉士国家試験に合格する必要があります。大学、専門学校等の養成施設を卒業することでも資格取得できますが、一般的に来日し介護現場で働いている外国人の場合は、前者の国家試験を受験することが普通です。しかし、日本語で試験を受ける大きな壁が立ちはだかっています。日常会話は不自由がなくても、日本語の筆記試験を受けるのは、皆さんが得意？の英語で英国の介護資格試験を受けることを想像してみてください。絶望的な気持ちになりませんか。

ホワイトボードに、①療法士、②薬剤師、③内服薬、④舌下錠、⑤外用薬、と書き出して、その読みのみならずその語彙の説明を求められていました。これもまた、私たちが英語で読み、英語で意味を説明するのを念頭

に置いてみてください。その大変さは想像を絶します。日本語を母語としない受験者のために試験問題にフリガナが振られるようになったとのことですが、読みだけでは解決できないのだと理解できました。

当日は、4人が学習していましたが、その一人は川越からはるばる通って来ているとのこと。住んでいる地域には、介護福祉士試験に係わる日本語指導をしてくれるところがないからという。指導役は、てーねん・どすこい倶楽部の日本語教育指導部の柳田部長はじめボランティア・スタッフの面々が担っている。地元墨田区だけではなく、この取り組みをたまたまラジオで聞き、駆け付けた人もいるという。昨年末には、毎日新聞のコラムで取り上げられ、「支援とは一方的なものではない。支えることは支えられることにつながる。教室に集う人たちはそれを知っている。」と格調高く結ばれていました。

今回、私が感じたことは、支援という言葉とはまた違う母国を離れて懸命に努力している自分たちに、親身に接してくれる優しい日本人がいることが嬉しく、また、教える側にその気持ちをストレートに表してくれる外国人とコミュニケーションできる喜び、そんな場の暖かさを教室に通う人たちは作っている、というものです。そんな教室の暖かい雰囲気の中に招き入れていただき、ありがとうございました。



当日の参加者の学習の様子

イベント報告

◆北区新生活運動推進協議会 新春の集い

1月15日、王子の北とびあいで、区長、教育長も参加して、和やかに行われました。

◆新宿区消費生活展 角筈生活学校

1月17日～18日、新宿駅西口広場で、リサイクル小物を配布し、好評を得ました。



北区新春の集い



角筈生活学校

今後の予定

◆推進大会表彰式 3月6日(金) ◆総会 3月19日(木) ともに都消費生活総合センター(飯田橋)

▽ひとこと 幕尻の徳勝龍が大相撲初場所で優勝した。インタビューで「自分なんか優勝していいんでしょうか」と、相撲界に限らず勝てば何をやっても許されると思っている輩の傲慢にして不遜な言動、態度が横行している現代では、珍しくも謙虚さに溢れた発言が心を打った。もちろん、誰もが優勝するとは夢にも思わなかった超々ダークホースの力士の優勝なのだから、謙虚であって当然なのかもしれないが、今の世の中、その謙虚さがあまりにも失われているように思われてならない。地球温暖化に対して目を背け、足元の便利さを奪われまいとする傲岸不遜が跋扈し、自然に対する謙虚さのかけらもない。人間なんてそんなもの、と嘯いてもいられない。人間が住まわせていただいているのが地球だということ、日の出町のジオ研究会の発表内容は難しかったが、少なくとも感じとれたことの一つである。何十億年かかけて今の地球があり、何十万年かかけて人類が定住してきて、何百年かで温暖化をもたらし、自らの滅亡を招く。宇宙の生業からすれば、ほんの一瞬の些細な出来事かもしれないが、今を生きる私たちには重大事だ。謙虚たれ、やはり「徳勝龍に学べ」である。(竜)